

# 吹田市子ども読書活動推進計画（改訂）

吹田市では、以下の3点を基本的な考え方とし活動を推進してまいります。

- ① 子どもが読書に親しむための機会の提供
- ② 子ども読書活動推進のための諸条件の整備・充実
- ③ 子どもの読書についての啓発・広報

平成25年（2013年）3月

吹田市教育委員会

# 目 次

|                               | ページ |
|-------------------------------|-----|
| はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・  | 1   |
| 第1章 子ども読書活動推進計画の成果と課題・・・・・・・・ | 1   |
| 第2章 推進のための具体的な取り組み・・・・・・・・    | 4   |
| 1 家庭における子ども読書活動の推進・・・・・・・・    | 4   |
| 2 地域における子ども読書活動の推進・・・・・・・・    | 5   |
| 3 保育所や幼稚園における読書活動の推進・・・・・・・・  | 6   |
| 4 学校における読書活動の推進・・・・・・・・       | 7   |
| 5 図書館における子どもの読書活動の推進・・・・・・・・  | 8   |
| 図表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・    | 13  |
| 【資料】                          |     |
| 1 ブックスタート事業・・・・・・・・・・・・・・・・   | 14  |
| 2 夏休み文庫・・・・・・・・・・・・・・・・       | 15  |

## はじめに

吹田市では、平成 19 年（2007 年）3 月に「吹田市子ども読書活動推進計画」（以下「推進計画」という）を策定しました。この推進計画をもとに、子どもの読書環境をより豊かなものにするため、関係する部局が様々な事業の推進に取り組んできました。

学校では、司書教諭、読書活動支援者の配置や「朝の読書活動」などにより読書に親しむ環境づくりを行い、幼稚園や保育所においても読み聞かせなどを通して本と出会う機会づくりに努めてきました。また、図書館ではブックスタート事業をはじめ、読み聞かせや行事等を通して子どもと本の橋渡しを行い、学校や幼稚園、保育所などの施設と協力し、子どもが本に親しむ機会を提供しています。

平成 19 年度（2007 年度）から平成 23 年度（2011 年度）の 5 年間にわたって取り組んできた成果を検証する中から、新たな課題も浮かび上がってきました。これらの状況を踏まえ今後の推進計画を策定するものです。

## 第 1 章 子ども読書活動推進計画の成果と課題

子どもの読書活動について国を挙げて支援するため、平成 13 年（2001 年）12 月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布・施行されました。同法に基づき、平成 14 年（2002 年）8 月「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定され、さらに平成 20 年（2008 年）3 月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（第二次）が策定されました。

また、平成 17 年（2005 年）には、「文字・活字文化振興法」が施行され、平成 22 年（平成 2010 年）を国民読書年として様々な事業が全国で行われました。

吹田市においても、平成 19 年（2007 年）3 月「吹田市子ども読書活動推進計画」を策定し、子ども読書活動の意義と今後の吹田市における子どもの読書活動の推進に関する施策の方向性や取り組みを示し、子どもの読書活動の推進を図ってきました。

## 1 成果

吹田市では、子どもの読書にかかわる活動のさらなる推進に取り組むとともに、家庭・地域・学校・図書館等の関係をより緊密なものとし、市民の方々と連携をして、子どもの読書環境をより豊かなものにするよう努めてまいりました。

平成 19 年度（2007 年度）から平成 23 年度（2011 年度）の 5 年間において、具体的には次のような活動が挙げられます。

### （1）ブックスタート事業について

赤ちゃんの心豊かな成長を願って、図書館が選んだ 5 冊の絵本の中からご希望の 1 冊を贈っています。

母子健康手帳に事業を紹介するページを新たに設けるなど多くの市民に周知できる体制づくりを行い、絵本の配布率や「ブックスタートのひろば」（※1）への参加者の増加を図っています。

### （2）地域では

地域においては、図書ボランティアの方々と協働して青少年クリエイティブセンターの図書室の整備に努め、保育所や幼稚園では「まちかど子育て絵本館」（※2）など地域の方々にも参加していただける機会づくりを積極的に行っています。

### （3）小・中学校では

読書活動支援者を配置し学校図書館教育の充実を図るとともに司書教諭や他の教職員、読書活動支援者、朝の読み聞かせボランティアが連携して計画的に読書活動を進めています。

### （4）図書館では

子どもの読書活動の充実を目指したサービス展開を行うとともに新たなボランティアを養成し、協働して活動を行っています。

子どもたちにより読書に親しんでもらうため、夏休み期間中は図書館で「夏休み文庫」（※3）を設置し、おすすめ本を紹介した小冊子「もうよんだかな？」や「てくてく」を作成・配布しています。

### （5）市民が選ぶ子どもたちに読ませたい本について

平成 21 年（2009 年）には、市民の協力を得て「市民が選ぶ子どもたちに読ませたい 100+5 冊の本」を選定し、紹介冊子を発行すると

もに、図書館や学校で展示・貸出を行っています。

(※1) ブックスタートのひろば

ブックスタートの絵本を贈るだけでなく、引き続き図書館を利用し、子どもと絵本のつながりを持ってもらうために開催しています。

0・1歳児と保護者を対象にした、絵本の読み聞かせとわらべうた・手遊びを楽しむおはなし会で、図書館での養成講座を受講したボランティアが担当しています。

(※2) まちかど子育て絵本館

子育て中の親が、子育ての楽しみが実感できるよう、絵本を通じて親子のふれあいの機会を創出するほか、子育て世帯同士が絵本を通じて、まちかどでの井戸端会議的な雰囲気できれいに交流できる場を設けることにより、育児の負担感の軽減を図るための事業です。

(※3) 夏休み文庫

夏休み期間中に特設コーナーを設け、1年間に出版された本の中から、司書が選んだおすすめ本を紹介しています。幼児から小学生向けの「もうよんだかな？」と中高生向けの「てくてく」があります。

## 2 課題

今後も活動を推進するとともに、さらに充実を図るための課題としては次のものが挙げられます。

(1) 各施設との連携の強化による資源の有効活用

学校・幼稚園・保育所・図書館など施設の横の連携を心掛けて活動を行っていますが、十分とは言えない状況です。

各施設が実施している活動状況を集約し、それをもとに図書館が中心となって行動計画を策定し、活動内容をさらに広げていく必要があります。

(2) 保護者に対する啓発活動

学校、公民館等の施設で保護者向けの講演会など啓発活動を行うとともに、ケーブルTVを利用して図書館で実施している「抱っこで絵本」の講座等を配信し、子どもの読書活動への支援を広げていく必要があります。

### (3) 障がいを持つ児童への取り組み

わかたけ園や杉の子学園等への出前講座を通じ、障がいを持つ子どもたちへの読書活動を支援するとともに、マルチメディアデージー図書（※4）の活用を広げていくなど新しい活動を視野に入れていく必要があります。

これらの課題をもとに、それぞれの施設が連携して活動を展開していく必要があります。

### (※4) マルチメディアデージー図書

パソコンを利用し、文字・音声・画像を同時に再生でき、読みの速さや画面上のレイアウト（文字の大きさ・色・背景色など）の変更ができる新しいメディアのことで、通常の見ることができない人が自分に合った方法で読書に親しむことができます。

## 第2章 推進のための具体的な取り組み

### 1 家庭における子ども読書活動の推進

#### (1) 現状と課題

吹田市では、家庭での絵本の読み聞かせを通して親子の絆を深め、子どもの心豊かな成長を願って、ブックスタート事業に取り組んでいます。

絵本の配布については各図書館で行っており、保健センターでは母子健康手帳にブックスタートを紹介するページを新たに作るとともに、4か月児健診や乳児後期健診の受診案内にリーフレットを同封するなど事業のPRを図っています。

また、乳幼児健診協力医療機関にブックスタートのポスター掲示を依頼し、多くの市民に周知できるよう努めています。

図書館では、職員やボランティアによる親と子を対象にした読み聞かせの会を実施したり、親を対象にした読み聞かせ講座を行ったり、絵本を読み合うことの楽しさを伝えています。

また、保育所の父母の会や学校のPTA等への出前講座を通して、読み聞かせの仕方や絵本の選び方、本の紹介も行っています。

保健センターでは、乳幼児健診時の待ち時間を利用して、保育士による絵本の読み聞かせを行ったり、健診会場の随所に絵本を置き、気軽に手に

とって見てもらうなどの工夫をしています。

育児教室でも絵本の読み聞かせを取り入れ、親子と一緒に絵本を楽しむ場をつくっています。家庭における子どもの読書を支援するためには、親子が気軽に参加でき、読書を楽しむ様々な機会や場が必要です。

家族での図書館利用や育児教室などのPRをきめ細かに言い、参加の輪を広げることが必要です。

## (2) 充実に向けての今後の取り組み

- ① ブックスタートのひろばに保健センターの保健師も参加する機会を設け、育児相談等を行うなど、ひろばの充実を図ります。
- ② 保育所、幼稚園、学校、図書館など身近な施設で、親子での読み聞かせの楽しさや、読書の大切さなどを伝える講座を行うとともに、親子で参加できる読み聞かせの会などを行います。
- ③ 市の広報紙や図書館のホームページやケーブルテレビなどを活用し、図書館のPRや催し物の紹介、読書に関する情報の提供を行います。
- ④ 乳幼児健診や育児教室などの機会を利用して、保護者に読み聞かせの楽しさや大切さを伝えるための取り組みの充実を図ります。

## 2 地域における子ども読書活動の推進

### (1) 現状と課題

一昔前までは地域社会に人々のつながりがあり、地域ぐるみで子どもを育てるような環境がありました。しかし、都市化、核家族化、少子化が進み、また子どもを巻き込んだ犯罪が多発する現在では、子どもと地域社会のつながりが、ますます希薄になっています。

地域社会が、子どもとのつながりを大切にし、子育てに積極的に取り組んでいくことが求められています。

吹田市には、現在、子どもの活動場所となる施設として児童会館・児童センターが11か所と青少年クリエイティブセンター、子育て青少年拠点夢つながり未来館、自然体験交流センターがあり、それぞれに図書コーナーを設け、子どもと本をつなぐ役目を果たしています。

公民館でも、児童用の図書を配置するなど子どもの読書活動の一端を担っています。

また、現在、市内に5つある家庭・地域文庫（※5）には、30年以上もの長きにわたって、多くの子どもに本との出会いの場を提供してきた文庫もあり、それぞれが独自に子どもと本をつなぐ場としての活動を行っています。

さらに、図書館や学校などで読み聞かせを行うボランティアも増えてきており、大人が、さまざまな立場で、子どもと本の橋渡しを行うようになってきています。

今後は、地域にある児童会館・児童センター、青少年クリエイティブセンター、青少年活動サポートプラザ・のびのび子育てプラザ、自然体験交流センター、公民館、家庭・地域文庫、PTA、子ども会や子育てサークルなどの施設、団体、グループが、それぞれの活動情報をおたがいに共有しあい、活用することによって、子どもの居場所づくりや子どもの読書活動の場づくりをしていくことが必要です。

## (2) 充実に向けての今後の取り組み

- ① 児童会館・児童センター、青少年クリエイティブセンターなどの図書室での本の充実を努め、子どもが身近に本と接することができる環境の整備に努めます。
- ② 児童会館・児童センター、青少年クリエイティブセンター、のびのび子育てプラザなどで働く人たちや地域の人々が、子どもの読書について理解と関心を深める研修などの充実を図ります。
- ③ 青少年クリエイティブセンターでは、図書ボランティアと協働して図書室の整備に努めます。
- ④ 文庫や図書館、学校などで活動するボランティアへの支援を充実し子どもの読書活動の場づくりに努めます。
- ⑤ 子育てサークル、子育てサロンなどの子育て支援活動における子ども読書活動を支援します。
- ⑥ 子ども読書活動にかかわる市民のネットワークづくりと情報交換の推進を支援します。
- ⑦ 子どもにかかわる団体に対して、子どもの読書についての啓発に努めます。
- ⑧ 図書館による出前講座を活用し、読書への理解を深めていくよう努めます。

## (※5) 家庭・地域文庫

子どもと本を結びつけるために、自宅や集会場などで本の貸出や読み聞かせなどの活動を行っています。

## 3 保育所や幼稚園における読書活動の推進



### (1) 現状と課題

保育所や幼稚園は子どもにとっては初めての集団生活の場であり、先生や周りの友達とともに多くのことを学ぶ場でもあります。集団の中で体験する絵本や紙芝居などの読み聞かせは、家庭とは違う雰囲気や一体感などを味わうことが多く、「見る」「聞く」「知る」楽しみを発見する良い機会となっています。

本市の保育所や幼稚園では、在園児だけでなく地域の方にも読み聞かせを行うとともに、子どもが自分の興味や関心に応じて絵本などを手にとり、親しむ機会ももっています。

また、絵本などの貸し出しを行っており、家庭で読み聞かせをしてもらう機会をつくっています。子どもへの読み聞かせは、保護者自身が絵本の楽しさに気づくなど、親子の絆を深めたりする機会のひとつになっています。

### (2) 充実に向けての今後の取り組み

- ① 絵本や物語、紙芝居などの教材研究を深め、指導力向上のための職員研修の充実を図ります。
- ② 子どもも保護者も、絵本の楽しさを知る中で、地域の図書館に足を運べるよう図書館との連携を図ります。
- ③ 保護者とともに絵本についての講演を聞く機会の設定に努めるとともに読書にかかわって子どもの育ちを共有していけるよう取り組みます。
- ④ 職員だけでなく、保護者やボランティア等に読み聞かせをしてもらう機会を持つよう取り組みます。
- ⑤ 未就園児を対象とした子育て支援活動の中で読み聞かせに組み込み、地域の就園前の子どもたちや保護者への啓発に努めます。
- ⑥ 就園前の地域の子どもたちや保護者が親子で絵本を読んだり、借りたりすることができる「まちかど子育て絵本館」事業の充実を図ります。

## 4 学校における読書活動の推進

### (1) 現状と課題

学校における読書活動は、生涯学習の基礎を培うとともに、子どもの語彙を豊かにし思考力を養うなど学力の基盤であり、情緒豊かな心を育成する上でも、非常に大切です。

現在、司書教諭や読書活動支援者の配置による学校図書館教育の推進とともに、地域のボランティアによる「読み聞かせ」等の取り組みの充実

努めており、児童・生徒の発達段階に応じた読書活動が行われています。また図書館と連携し、学校への図書の特貸出しなどを受け入れていきます。

日々の各教科や総合的な学習の時間の学習はもちろんのこと、「朝の読書活動」等の実施や夏季休業中の読書感想文コンクールを開催するなど、読書に親しむ態度を育成し、読書習慣を身につけさせ、読書経験を豊かにする機会を効果的に位置づける取り組みを行っています。

また、調べ学習等の児童・生徒の主体的な学習活動を行う上でも、読書活動の充実につながる機会を増やすよう努めてきました。

学校図書館検索システムにより、自校だけでなく他校も含めた検索が出来るなど環境整備を行い、子どもたちにとって、よりニーズにあった図書を借りる機会を増やすことに努めています。

図書館と連携しながら、学校図書館担当教員を対象とした研修を毎年実施し、読書活動・読書指導の充実を図っています。

さらに読書活動を推進するために、読書の時間や機会を確保し、読書環境を整備するとともに、児童・生徒の読書意欲を高める指導の充実を図ります。

## (2) 充実に向けての今後の取り組み

- ① 学校における読書活動推進体制づくりを進めます。司書教諭や他の教職員、読書活動支援者、ボランティアが連携・協働して、年間を通じて、計画的系統的に読書活動を進めます。
- ② 「朝の斉読書」や「読書週間」「子ども読書の日」など、子どもの読書経験を豊かにする時間を効果的に位置づけ、学校や学年・学級単位での読書活動の取り組みが一層広がるように、優れた読書活動方法の情報収集と実践に努めます。
- ③ 学校図書館が、学習情報センターとしての機能の充実に努めるとともに、読書センターとして、推薦図書コーナーや季節コーナーを設けたり、人気の図書の充実を図ることや環境を整備したりするなど、足を運びたくなる場になるよう工夫していきます。
- ④ 読書指導に関する指導方法や読書環境の充実を図る方法について研修を通じて、教職員の指導力の向上を図ります。また、学校図書館を活用した指導方法の開発を進めます。
- ⑤ 図書館との一層の連携を進めます。

## 5 図書館における子どもの読書活動の推進

### (1) 現状

中央図書館を中心に、地域館・分室、移動図書館がネットワークを組み、学校、保育所などの関係機関や家庭・地域文庫などの市民団体と連携しながらさまざまな読書サービスを行っています。

平成23年(2011年)3月には、子育て青少年拠点夢つながり未来館(ゆいぴあ)内に山田駅前図書館がオープンし、子どもの読書活動に力を注げる体制となりました。平成24年(2012年)9月には千里図書館が移転し、施設の拡充や資料の充実を行い、平成25年(2013年)1月には千里丘に新しい図書館がオープンし、より便利に利用できるようになりました。

#### ① 資料の収集について

図書館では、子どもの多様なニーズに応えるため、「吹田市立図書館資料収集方針」(平成14年(2002年)4月制定)に基づき、幅広い分野で魅力ある本をできるかぎり多く収集し、新しく入った本の紹介やテーマに沿った本の展示を行っています。

#### ② ブックスタート事業について

平成15年(2003年)10月より実施しています。絵本を贈るとともに、「ブックスタートのひろば」を読み聞かせボランティアの協力のもとに開催し、子どもと本との出会いや親子のふれあいを応援しています。

#### ③ 就学前の子どもへの働きかけについて

「ブックスタートのひろば」に続き、2・3歳児と保護者対象の「おひざで絵本」、4歳児以上を対象とした「おはなし会」など年齢に応じた絵本の読み聞かせを実施しています。

また、年齢別絵本リストを作成するとともに、新たに乳幼児向けの絵本のコーナーを設け、様々な絵本と接する機会を設けています。

#### ④ 小学生への働きかけについて

入学を機に、読書へのきっかけとなるように「おめでとう1年生」と題した本の紹介パンフレットを新1年生全員に配布するとともに、特設コーナーを設置しています。

また、本を選ぶ際の参考になるように、学年別図書リストを作成するとともに、夏休み前には職員がその年のおすすめ本を紹介したパンフレット「もうよんだかな?」を配布して読書への関心を高めるように努めています。

#### ⑤ 中学生・高校生への働きかけについて

夏休み前には、小学生向けと同じくパンフレット「てくてく」を配布して

読書への一助となるように努めています。

#### ⑥ 学校との連携について

「総合的な学習の時間」などへの資料相談に応じるとともに、子どもや教職員の資料要求にも応えています。

また、「もうよんだかな？」に選ばれた本は、翌年以降学年別のセットにして、希望する小学校への貸出を開始し、各学校での読書活動に利用されています。

#### ⑦ 図書館利用の促進について

本の紹介をかねて、保育所、幼稚園、学校へ司書が訪問するとともに、保育所の父母会やPTA等への出前講座も行っています。

図書館をより身近に感じていただくために、保育所、幼稚園、小学校の図書館見学の受け入れや、一日図書館員を実施しています。

中学生の職業体験を受け入れ、図書館の仕事を実際に体験してもらっています。

4月23日の「子ども読書の日」の前後1ヶ月間は、全館行事として「子どもと本のまつり」を、市民団体である「吹田子どもの本連絡会」と協働で開催し、おはなし会や紙芝居、人形劇などさまざまな行事に取り組んでいます。

また、児童書や読書に関心のある市民を対象とした「子どもと本の講座」や講演会をボランティアの協力を得て開催しています。

## (2) 課題

子どもたちが、いつでも、どこでも読書に親しめるよう、学校、保育所などの関係機関や家庭・地域文庫などの市民団体との連携を強化するとともに、保護者、教職員、ボランティアなどが、子どもの読書について関心を深め、協力をするための取り組みが大切です。

#### ① 配本体制の確立について

図書館では、より身近な場所で読書してもらうため、小学校・中学校の教室や、留守家庭児童育成室、家庭・地域文庫などへの団体貸し出しを行っていますが、配本に係る業務は各施設の負担となっており、より一層の連携を進めていくためには配本のための運搬手段の確保が必要です。

#### ② 図書館の利用が困難な子どもへの働きかけについて

障がいのある子どもや入院・療養中の子ども、外国人の子ども、帰国児童・生徒への読書活動支援も今後の大きな課題のひとつです。

障がいのある子どもの読書を豊かなものにしていくためには、障がいの状態に応じた適切な資料の収集や設備の整備などが必要であり、日常的に本と

ふれあえる環境づくりが大切となります。そのため、平成23年(2011年)から杉の子学園やわかたけ園への出張読み聞かせを試験的に行っています。

入院・療養中の子どものためには、図書を提供できるよう読書環境を整えるとともに、市民団体やボランティアグループなどと協力し、本に親しむ機会をつくる必要があります。

また、来日した外国人の子どもにとって、自国の言葉で書かれた資料は、自国の文化を知るためにも必要不可欠であり、日々の生活のために日本語を学ぶ資料も必要となります。

#### ③ ヤングアダルト層(中学生・高校生)への働きかけについて

今後、子どもたちの多様なニーズに応えるため、それぞれの年齢にあった資料の充実が努める必要があります。特に読書離れが著しい中学生、高校生をひきつけるために、資料の充実を含めたサービスの強化が必要です。

また、小学校、中学校への学校訪問を充実させ、興味ある本の紹介や、読書の楽しさを伝えるとともに図書館を利用してもらえるよう努めていくことが必要です。

#### ④ 司書について

研修への参加など図書館の児童サービスを担当する司書の資質の向上に努める必要があります。

### (3) 充実に向けての今後の取り組み

子どもと保護者が安心して図書館を利用できるよう環境整備を行い、図書館を、絵本と出合う楽しい場所にする機会を増やします。また、子どもの読書について関心と理解を深めてもらうよう、講座・研修を実施します。

ブックスタートのひろばやおはなし会などの行事を充実させるとともに、ボランティアの育成講座やスキルアップ講座を開催し、継続的支援を行います。また、児童サービスを担当する司書の研修を充実させ、資質の向上を図ります。

#### ① 資料について

- ・子どものニーズに応えられる資料の収集と充実を図ります。
- ・山田駅前図書館を中心に、中学生・高校生にとって魅力的な資料の充実を図ります。
- ・外国語の資料や、視聴覚資料などの図書以外の資料の収集と充実を図ります。

#### ② 連携について

- ・小学生や中学生の興味をひく本の紹介や本を読む楽しさを伝えるための

学校訪問を充実させていきます。

- ・学校等の公共機関や家庭・地域文庫やボランティア等の関係団体との連携・協力体制を充実させ、活動状況をまとめるとともに行動計画の策定を進めていきます。
- ・図書館のホームページを充実することにより、子どもの本に関する情報や資料を関係機関・団体に提供するとともに、協力を図ります。
- ・調べ学習の支援をさらに進めるために、配本体制の確保に向けた取り組みを早急に検討実施していきます。

③ 図書館利用が困難な子どもへの働きかけについて

- ・外国人の子どもや障がいのある子どもが図書館を気軽に利用できるよう適切な支援を行います。
- ・入院・療養中などで図書館の利用が困難な子どもの読書の機会が増えるよう努めます。
- ・点字図書、音訳図書、大活字本、さわる絵本など、障がいのある子どもに必要な資料の収集・活用を行うとともに、新しいメディアに対応できるよう研究を進めます。

## 【資料1】ブックスタート事業

- ・平成15年(2003年)10月より保健センター、子育て支援課と協力して事業を開始。  
この年度の配布冊数は、946冊。
- ・同時にブックスタートのためのお話ボランティア養成講座を開催。  
受講後、29名がボランティアグループ「りんごの木」として活動開始。
- ・平成16年(2004年)1月より「ブックスタートのひろば」を開催。  
平成16年度(2004年度)の配布冊数は、2,384冊(配布率71%)。  
ひろば参加者数は、10,573人。
- ・平成22年(2010年)「おひざで絵本」のためのお話ボランティア養成講座を開催。

### 絵本の配布状況

|         | 平成19年度<br>(2007年度) | 平成20年度<br>(2008年度) | 平成21年度<br>(2009年度) | 平成22年度<br>(2010年度) | 平成23年度<br>(2011年度) |
|---------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 配布冊数(冊) | 2,280              | 2,293              | 2,343              | 2,316              | 2,641              |
| 対象者数(人) | 3,084              | 3,191              | 3,190              | 3,104              | 3,177              |
| 配布率(%)  | 73.9               | 71.9               | 73.5               | 74.6               | 83.1               |

### ブックスタートのひろば (0～1歳児と保護者)

|           | 平成19年度<br>(2007年度) | 平成20年度<br>(2008年度) | 平成21年度<br>(2009年度) | 平成22年度<br>(2010年度) | 平成23年度<br>(2011年度) |
|-----------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 参加人数(人)   | 17,241             | 14,884             | 14,378             | 15,014             | 12,396             |
| ボランティア(人) | 82                 | 73                 | 73                 | 86                 | 93                 |

\* ボランティアグループ「りんごの木」が担当

### おひざで絵本 (2～3歳児と保護者)

|           | 平成19年度<br>(2007年度) | 平成20年度<br>(2008年度) | 平成21年度<br>(2009年度) | 平成22年度<br>(2010年度) | 平成23年度<br>(2011年度) |
|-----------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 参加人数(人)   | 1,714              | 2,727              | 3,336              | 3,501              | 3,635              |
| ボランティア(人) | —                  | —                  | —                  | 58                 | 65                 |

\* ボランティアグループ「こぐま」が担当



## 【資料2】 夏休み文庫

- ・ 昭和50年(1985年)から開始し、紹介冊子「もうよんだかな？」は38号まで発行。前年に発行された本の中からおすすめ本を選定し、紹介しています。
- ・ 昭和60年(1985年)からは、中学生・高校生向けの紹介冊子「てくてく」も発行。前年に発行された本の中から選定したおすすめ本と特集の本を紹介しています。



### 「もうよんだかなセット」の貸出

- ・ 「もうよんだかな？」と「てくてく」用に購入した複本を利用。
- ・ 学年ごとのおすすめの本セットを学校へ貸出し、読書推進に活用。
- ・ 平成17年度(2005年度)に試行し、平成18年度(2006年度)より実施。

### 貸出状況

|         | 平成19年度<br>(2007年度) | 平成20年度<br>(2008年度) | 平成21年度<br>(2009年度) | 平成22年度<br>(2010年度) | 平成23年度<br>(2011年度) |
|---------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 利用学校(校) | 18                 | 15                 | 14                 | 11                 | 7                  |
| 貸出冊数(冊) | 2,400              | 1,080              | 1,480              | 1,400              | 1,240              |
| セット数    | 60                 | 27                 | 37                 | 35                 | 31                 |



# 吹田市子ども読書活動推進計画における具体的な取り組み

